

韓国伝統民家の内部空間

李得善家の事例・実測を中心に

Interior Space of the Korean Traditional Housing The Case Study of Yiduksun's house

八代美智子 申京珠
Michiko Yashiro Kyung Joo Shin

1. はじめに

中国、韓国、日本は東アジア圏の中でも互いに近接しており古くから影響しあってきた。特に日本は両国からの文化的影響ぬきには考えられない。しかし各国は同じ木造建築の文化圏に属するが、気候・風土の相違もあり、今日ではかなりの差が生じている。例えば韓国の場合、国の60%以上の住宅が鉄筋コンクリート造の高層アパートであるが、日本の場合は現在も木造住宅が主である。日本に影響を与えた韓国の木造住宅は将来消滅するかも知れない。ここで本研究者は現在も伝統に近い生活様式で使用されている韓国の伝統民家の実測を行い内部空間について考察した。

韓国の伝統民家は多様な角度から分類できるが空間の「形」から次のように分類できる。

- 一字家 (ilcha zip : イルジャ ジイブ)
 - フ字家 (kiyuk cha zip : キヨク ジャ ジイブ)
 - ㄷ字家 (Digut cha zip : ジクツ ジャ ジイブ)
 - ㅁ字家 (Mieum cha zip : ミウン ジャ ジイブ)
 - ㅂ字家 (Ilcha zip : イルジャ ジイブ)
 - ㅅ字家 (walcha zip : ワルジャ ジイブ)
 - ㅈ字家 (gog cha zip : コウン ジャ ジイブ)
 - ㅊ字家 (Chun cha zip : チョン ジャ ジイブ)
- また各家は男女別の生活領域を定め内棟 (Anche, アンチェ) 舎廊棟 (Sarangche, サランチェ) と、門間棟 (Munganche, ムンガンチェ) に区分している。倉庫も別の棟になっている場合が多い。この家も夫々別棟になっていた。

本研究ではフ字家と一字家の組合せであり、欠けたㅁ字の配置である李得善家住宅の空間について考察した。内部空間については平面図と展開図で示した。この事例から韓国の伝統住宅の空間構成を明確に把握できる。

2. 本 論

1) 外岩村について

(1) 伝統民家の観点からみた外岩村

韓国には民俗村とよばれ、未だに伝統的住宅で伝統に近い生活様式を保持している地域が全国に点在している。その民俗村は図1に表示したように、安東河回民俗村、城邑民俗村、月城良洞民俗村、高城旺谷民俗村、牙山外岩民俗村、樂安巴城民俗村であり外岩村もその一つである。各民俗村がそれぞれいつから指定され、どこに位置しているかは図1と表1に示した。



図1 民俗村位置図 (表1の詳細参照)

表1 伝統民俗村の現況（2003年10月現在）

名称	沿革	指定別・[指定日]
1 安東河回村	高麗末柳從忠公以後豊山柳氏の同姓村。洛東川の流が村を囲むようにS字形に流れているため河回（河が回る；ムルトリドン）と命名された。	重要民俗資料 第122号 [84. 1.10]
2 城邑村	世宗5年（1423）県庁を当地に移しながら形成。	重要民俗資料 第188号 [84. 6. 7]
3 月城良洞村	15C-16C頃に形成。月城孫氏、礼驪李氏の集姓村。	重要民俗資料 第189号 [84.12.24]
4 高城旺谷村	高麗末伝説によると威氏“ハムプヨルHumBuycol”が朝鮮建国に反対する一族を従え、隠居しながら形成。	重要民俗資料 第235号 [00. 1. 7]
5 牙山外岩村	約500年前姜氏、睦氏などの定着以後、400年前礼安李氏一家が移住して集姓村を形成。	重要民俗資料 第236号 [00. 1. 7]
6 樂安巴城村	樂安の平野にある邑城。朝鮮太祖6年（1397）に倭軍の侵入をこの地の出身者金賛吉が義兵と共に上城を築き討伐。その後仁祖4年～6年（1626～1628）軍主林慶業將軍が石城に改築。	史蹟 第302号 [83. 6.14]

（2）外岩村の風水

韓国では伝統的に居住地のため吉相の場所を選んで子孫の繁栄を願った。このような風水思想を重視して集落の立地にも適用した。

風水思想とはバランスの概念としての陰陽説と山川の形態を五行に分類した五行説を重要な論理構造とし、山河、水の流れ、地形などから人間の吉凶禍福を占い、禍を避け福を呼び込むことを目的とする。また、地気が流れる山なみを見る「看竜法」、山の配置を察する「蔵風法」、水の形勢を見る「得水法」、地税が揃わない所を補う「裨補法」などの形式論理を取り揃えている。

外岩里の聚落形態は、このような風水の観点で見ると、



図2 出所：大東如地図（牙山外岩民俗村綜合整備から再利用）昔の外岩村の地図

標高441mの雪華山を「主山」に、遠く南西の方に標高535mの逢受山を「朝山」にしている。この地勢の証なのか、今も昔の村の形態を維持している。

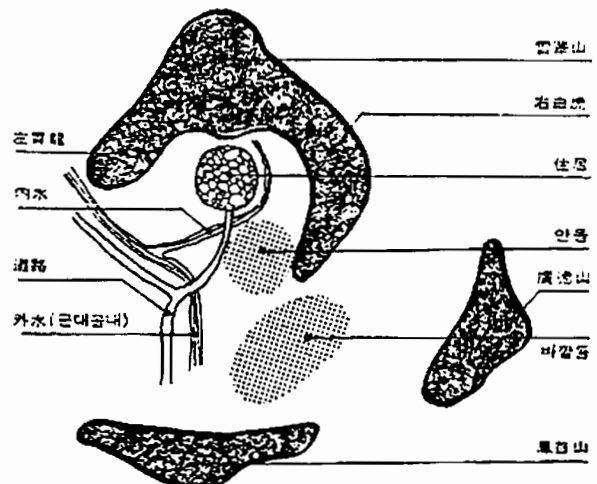


図3 出所：大東如地図（牙山外岩民俗村綜合整備から再利用）外岩村の風水図

（3）外岩村の住宅保存

現在も、礼安李氏が居住した瓦家や、多くの藁葺屋根の草家がよく保存されている。忠清南道（自治体）は、外岩村を1972年に「民俗保存村」として選定し、1982年3月にはここを「民俗観光村」と改称した。その後1988年8月「伝統建築物保存法」によって「国家指定伝統建築物保存地区」に変更された。2001年1月7日には「文化財保護法」を根拠とした「国家指定重要民俗資料第236号」に変更されている。したがって各住宅の所有権は個人に帰するが、個人が自由に改造、増・改築するなどの行為は許されていない。

2) 李得善家住宅

李得善家は外岩村に現存する両班家¹¹⁾である。李得善家は朝鮮王朝時代末に奎章閣（王の文書を保管する官営）の直学士と参判（朝鮮時代6曹の従2品官職）を勤めた祖父李貞列公（1865-1950）が高宗王から下賜を受けて1800年代末に建築した家である。

(1) 住宅の全貌

李得善家住宅は大きく分けると図4のように主屋棟（Anchae アンチェ）、舎廊棟（Sarangche サランチェ）、[倉庫棟]、門間棟（Munganche ムンカンチェ）で構成されている。

女性達の空間である主屋棟はフ字形で、そこには奥座敷（Anbang アンバン）、向う部屋（Geonneonbang キョンニョンバン）、客用部屋（Ansayangbang アンサランバン）、板の間、台所で構成されている。また奥座敷には上の間、配膳室がある。この空間の出入りのための内大門がある。主屋棟北側には醤油、味噌を置く味噌かめ間（Jandokdae チャンドクッテ）がある。主屋棟東側地中にキムチを保存するつぼの置き場（Kimchidok キムチドク）がある。東側に井戸水を汲む所（Umul ウムル）がある。

男性達の空間である舎廊棟は大舎廊の部屋（Keunsa rag クンサラン）、小舎廊の部屋（Jagenunsarang ザグンサラン）、舎廊床（Sarangmaru サランマル）で構成されて、大舎廊の部屋には押入れ（Saranggoulbang サランゴルバン）と寝室（Wikan ウィカン）と小さな



図4 李得善氏住宅配置図

板の間がある。

門間棟（Munkkunchae ムンカンチェ）は門番部屋（Munkkun bane ムンカンバン）、馬屋（Magugan マクカン）、物置（Heotgan ヒッカ）、台所（Jeongigan ジョンジカン）で構成されている。またこの空間には主人の出入りのための立派な大門（Sosuldaemn ソスルテムン）がある。

(2) 主屋棟・内棟（Anche）



図5 主屋棟外観

① 奥座敷（Anbang アンバン）

図14(1) ①

主屋棟の中心空間で祖母が主として生活する。方位は南東向きである。この部屋の中に8枚引き戸があり、閉めておけば図14(1) ①-1と①-2の2部屋に分割される。この障子の一部を開き空間の開放度を調節しながら生活している。普段はその半分から4分の3を開いておく。昼間客の多い時は開放にし、夜間宿泊客の多い時は2部屋に仕切って使う。



図6 上の間（南面）



図7 下の間（北面）

①-1 上の間（Wikan ウィカン）

図14(1) ①-1

通常はここを母親が幼児と使う。就寝時には、仕切りの戸を閉めて祖母も一緒に東方に枕を並べて眠る。

図6のように中庭に面した東面に、図15-1B面のように床から275mmの位置に幅1090mm×高さ1310mmの2枚

の「用の字型障子」がある。この障子の下側には硝子が入った窓があり、外の状況を知ることが出来る。そのため舎廊棟の動向を察して、客の数にあわせて舎廊棟に膳を出す仕事などが出来た。

この障子の外側に両開き戸 (Tisalmun ティサルムン) があり普通は開けておいて生活するが、冬はこの戸を閉めれば室内の温度維持ができる。この戸の前方の中庭に面して板の間があり腰掛けることができる。南面には、図15-2C面のように幅805mm×高さ500mmの両開き戸の物入れ空間 (ダラック) と幅610mm×高さ1230mmの片開き戸がある。物入れは、花蜜や栗などのおやつや貴重品を収納し、奥座敷 (アンバン) で使用される多様な物品の保存空間である。

①-2 下の間 (Alegan アレカン) 図14(1) ①-2

中庭から奥座敷 (アンバン) への出入りは図14(1) ①-2の片開き戸 (図15-1B面) から、配膳室へは北側の片開き戸 (図15-1A面) から入る。

①-3 配膳室 (Chanbang チャンバン)

図14(1) ①-3

この部屋には下の間 (アレカン) からと東面の板の間から入ることができる。窓は西側に1ヶ所ある。ここにはキムチやその他の食料品を収納する。

② 台所 (Bueok ブォク)

図14(1) ②

この家の主な台所であり、全ての家族の食事の支度をした。隣室の奥座敷の温突 (Ondol オンドル) に暖房を入れるために、ここに接した壁際にかまどがあった。これに並んで水がめを置いていた。西側にあった壁は常時使用する木を積んだ所である。しかし現在は、この壁を取り外し、奥北に奥座敷への入口を作り、現代の立式のL字型台所を設置した。その西側は出入口 (アルミニウム製ガラス戸) として使用している。中庭に面した従来の出入口は東へ開く2枚開きの板戸である。この戸と並んで、採光と排煙のための木棒戸 (Salchang サルチャン) がある。この窓は障子紙が張られていないので風が吹きこむ。

③ 客用部屋 (Ansalangbang アンサランバン)

図14(1) ③

祖母の親戚で同輩の客の場合はこの部屋を使用した。

年下の客が訪問すれば、「庭の下部屋」で持て成すように客によって使用する部屋の名称を考慮した。この部屋には東側に窓があり庭に面して出入口がある。室内側には両方に引き開ける「用の字型戸」があり外側には両開き戸 (ティサルムン) がある。

④ 向こう部屋 (Geonneonbang キョンニョンバン)

図14(1) ④

南に面しており、奥座敷①を母親が使えば、この部屋は成人した娘が使う。また祖母が奥座敷を使えば、嫁がこの部屋を使う。この家では孫の嫁がこの部屋を使った。この部屋の東面には図16B面のように、奥座敷と同様に物入れと屋根裏の空間 (ダラック) がある。片開き戸 (ダラックムン) は幅620mm高さ1240mmで、床から450mmの高さにあり上がるのには階段が必要である。物入れも床から440mmの高さにあり幅810mm高さ500mmで奥行きが浅かった。

屋根裏の面積は台所の面積にともない奥座敷の半分ほどであった。庭に面した開口部は、図16C面のように2重の窓と片開きの出入口がある。窓は内側には2枚引き戸「用の字型障子」がある。この外側に両開き戸がついている。また隣室の板の間 (テチョン) 図14(1) ⑥へ通じる片開き戸 (図16D面) があり、この戸を開放しておけば北西方向の開口部を通して夏も季節風を受け入れて涼しく快適に過ごすことができる。

⑤ 仮台所 (Heotbueok ヒップォク)

図14(1) ⑤

向う部屋 (キョンニョンバン) に付属した台所である。

⑥ 板の間 (Daechyeongテチョン)

図14(1) ⑥

この空間 (図9) は現在は多目的室として使用している。西側の壁面に米櫃が置かれていた。北側に以前は支柱のある棚があり多様な品物を収納した。北側壁面には図17A面のように2枚開きの板戸が2対ある。この右側の戸の上に幅800mmの棚があるがここは非常に涼しくて当時この家の冷蔵庫の役目をしたと言う。



図8 はね上げ戸



図9 板の間

この部屋の南側に図17C面のように庭先に向けて両開き戸が4対ある。この戸は1枚565mm幅で図8のように2枚に重ねて折った後はね上げて軒にかけるようになっている。そのため上げ金（Deulsoe ドルセ）が軒下に固定されていた。夏には涼しく、多人数が集まる行事の時は折りたためる戸が有効である。

(3) 舎廊棟 (Sarangcha サランチェ)



図10 舎廊棟外観

① 大舎廊の部屋 (Keunsarang クンサラン)

舎廊棟の中心空間は大舎廊の部屋で、祖父が住む部屋である。祖母は「お爺様の部屋」という呼び方をした。客が多人数の場合はこの部屋も客に提供して奥の座敷で眠ったりする。この部屋の中央に8枚の障子 (Saitchangji サイツァンジとも言う) があって、閉めておけば空間が2つに区画される。東の壁面の裏側は台所であるが、図18B面のように炊き口の側に2枚の開き戸 (Byeokjangmun ビョクザンムン) を持つ物入れ (Beckjang ビョクサン) と1枚開き戸 (Darakmun ダラムン) があり、図18A面のように部屋の北側に障子の前後の両面を張った戸 (Maengjangmun メンザンジムン)^(注2) がある。この部屋と南側板の間との間に図18C面のように床から350mmの高さの位置に (2枚を一方に寄せて開閉する) 幅1080mm×高さ1370mmの「用の字型障子」がある。この戸の下方に小さな硝子戸 (Nunkopjaegichang ヌンコップジェキチアン) があり戸を閉めた状態で外を眺めることができる。この障子の外に半分に折って両方に開く戸 (Sesalmun セサルムン) があって2重になっている。夏にはこの戸を開き、軒の下に掛けておけば部屋の前面が全て開放され、部屋の2重戸も開けておけ

図14(2) ①

ば涼しい。軒が深いので直射日光が遮られて部屋の中まで入らない。また床が高いので、室内へは数段上がり踏み石 (Detdol デッドル) を経て入る。地面から床まで1500mmあり、庭先に立った人からは、内部の様子を見ることは出来ない。

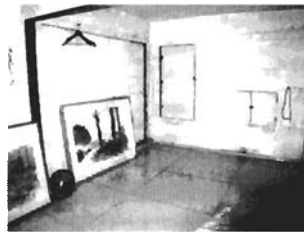


図11 大舎廊の部屋東面

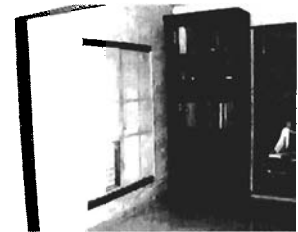


図12 大舎廊の部屋と板の間

大舎廊の部屋 (クンサラン) の北側半分は奥行き950mmの板の間で、寝具類を収納する押入れである。4枚引きの障子があり閉めておけば内部は見えない。図12のように西側の空間は寝室 (ウィカン) と呼ばれ男性の客や孫が寝室として使用する。

大舎廊の部屋南側の板の間は夏の暑い日には祖父が休んだりする。奥行き1250mm間口2500mmの広さで床を敷くのに都合が良い。部屋南面の4本の建具を全面開放すると涼しい所である。

② 守庁房 (Suchongbang スチョンバン)

図14(2) ②

祖父の使いをする、使用人である子供が生活する部屋で、西面の片開戸上部に棚の1種 (Silgeong シルゴン) を設置して私物を保管した。南面の片開き窓上部にも棚を設け食器類を収納した。東隣は舎廊棟で使う台所で、かまどがあり、水を温める水釜などが置かれた。

③ 舎廊大庁 (Sarangdaechong サランデジョン)

図14(2) ③

この住宅では板の間 (マルバン) と呼び、寝室としても使用するので数組の寝具が収納される。

南面の奥行き1250mmの板の間には図19C面のように2枚に折れる開き戸 (セサルムン) が2組あり、折畳んで軒下に吊りさげて、建具を4本全面開放できる。部屋の北側にも図19A面のように両開き戸があり、戸を開ければ奥行き800mmの板の間がある。伝統韓屋では板の間は夏の暑さに備えた空間である。この部屋も南北の風通しがよく快適に過ごせる。また図14(2) ①の空間の間

に折り戸（セサルムン）があり、これを開け放して1つの空間として使うことが出来る。図14(2) ①と③の空間が1空間として2空間、または夫々3つの空間として使える融通性を持っており今日の変型住宅と類似している。

④ 小舎廊（Jageunsarang ザグンサラン）

図14(2) ④

お爺さんの息子（父親）が主に生活する部屋。

⑤ 舎廊床（Sarangmaru サランマル） 図14(2) ⑤

舎廊棟を繋ぐ板の間で、この空間を通過して各部屋への移動が円滑になり腰掛けることもできる。日本の縁側に相当するが、それより幅は広い。

⑥ 中門間（Jungmungan ジュンムンカン）

図14(2) ⑥

内大門（Andaemun アンデムン）から入り主屋棟へ行く空間。壁際に穀類を保存する収納箱が置かれていた。



図13 門間棟外観

(4) 門間棟（Munganche ムンカンチェ）

門間棟は他の棟よりさらに西に傾いており一字型平面で8室ある。西端から4室目にこの住宅の正面となる立派な大門（Soseuldaemn ソスルテムン）図14(3) ③が位置している。この棟に馬夫と門番が居住した。

① 台所（Jeongjigan ジョンジカン） 図14(3) ①

門番が使う。

② 門番部屋（Munkkunjip ムンクンジップ）

図14(3) ②

板床（Neolmaru ニエルマル）に様々な物を置いて生活した。

③ 大門（ソスルテムン）

図14(3) ③

舎廊棟に居住する男性が出入りする立派な大門でありお神輿なども通った。

④ 馬を預かる人の部屋（Mabukkunjip マブクンジップ）

図14(3) ④

⑤ 馬屋（Magugan マクカン）

図14(3) ⑤

馬を飼っていた。

以前は部屋が2つあったが現在は間の壁を撤去してある。板床に様々な物を置いて生活した。

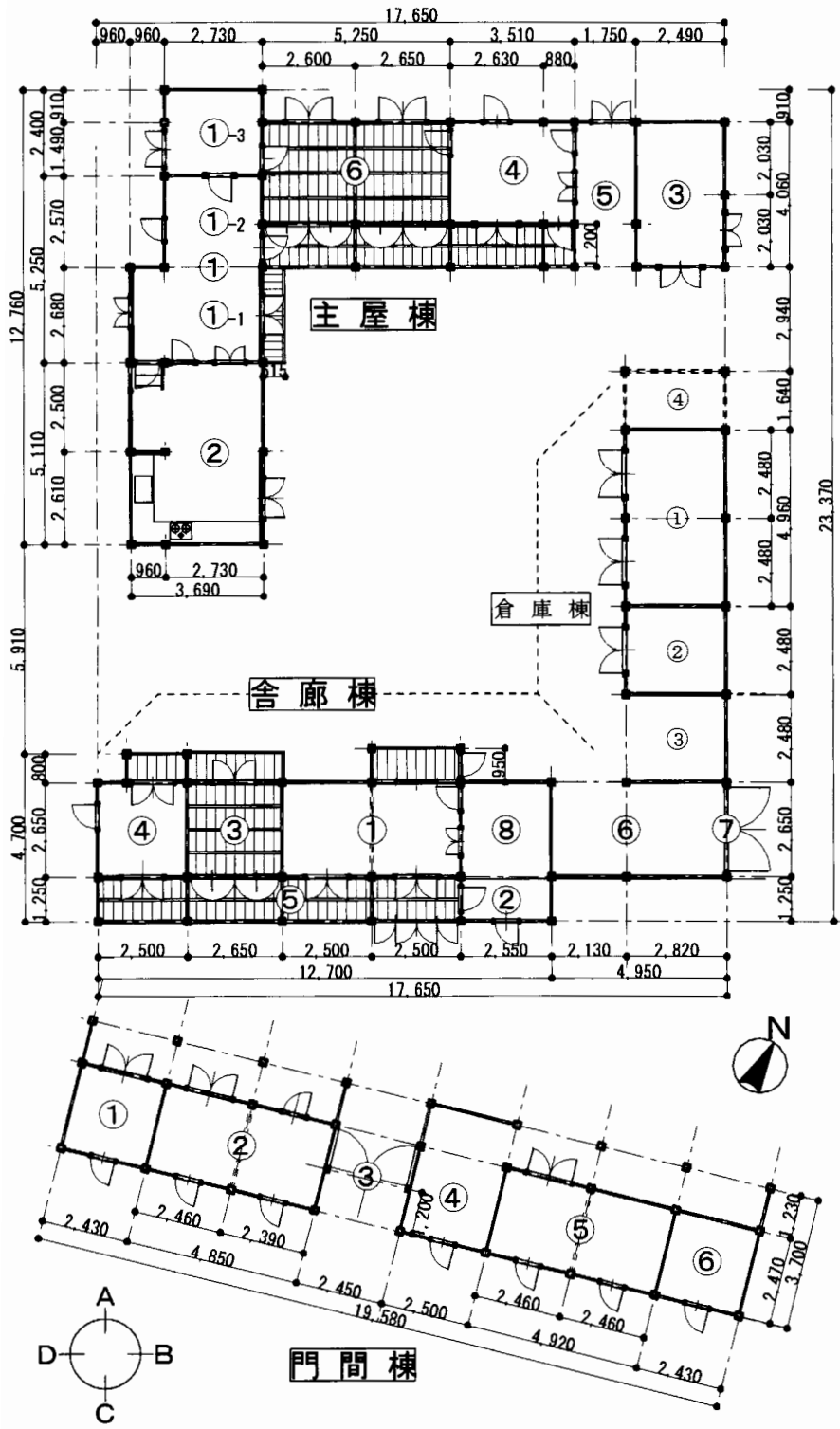
⑥ 物置（Heotgan ヒッカカン）

図14(3) ⑥

掃除道具などの収納場所である。

3. 平面図と展開図

李得善家住宅の実測を行い、平面図（図14）と展開図（図15-1、図15-2、図16、図17、図18、図19）を書いた。



(1) 主屋棟

- ① 奥座敷
- ①-1 上の間
- ①-2 下の間
- ①-3 配膳室
- ② 台所
- ③ 客用部屋
- ④ 向う部屋
- ⑤ 台所
- ⑥ 板の間
(多目的室)

(2) 倉庫棟

- ① 大舎廊の部屋
- ② 守庁房
- ③ 舎廊大庁
- ④ 小舎廊
- ⑤ 舎廊床
- ⑥ 中門間
- ⑦ 内大門
- ⑧ 仮台所

(3) 門間棟

- ① 台所
- ② 門番部屋
- ③ 大門
- ④ 馬を預かる人の部屋
- ⑤ 馬屋
- ⑥ 物置

(4) 倉庫棟

- ① 穀広・肉広
- ② 雑広
- ③ 木広
- ④ 現在浴室(増築)

展開図

図14 平面図

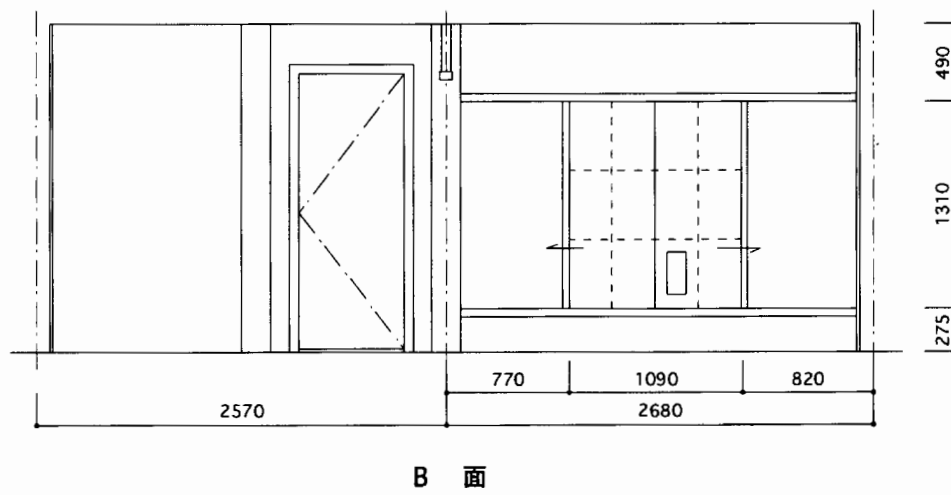
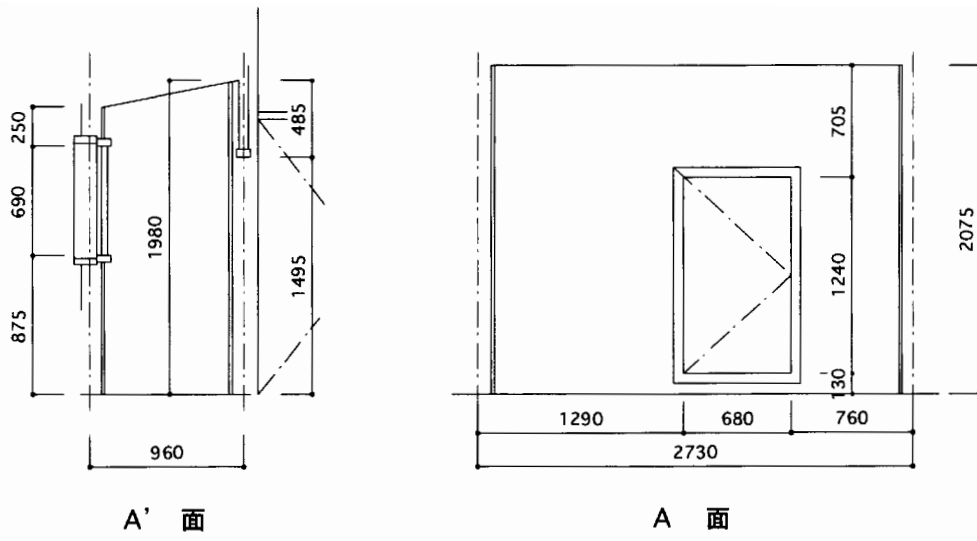


图15-1(1)主屋棟①奥座敷展開図 1

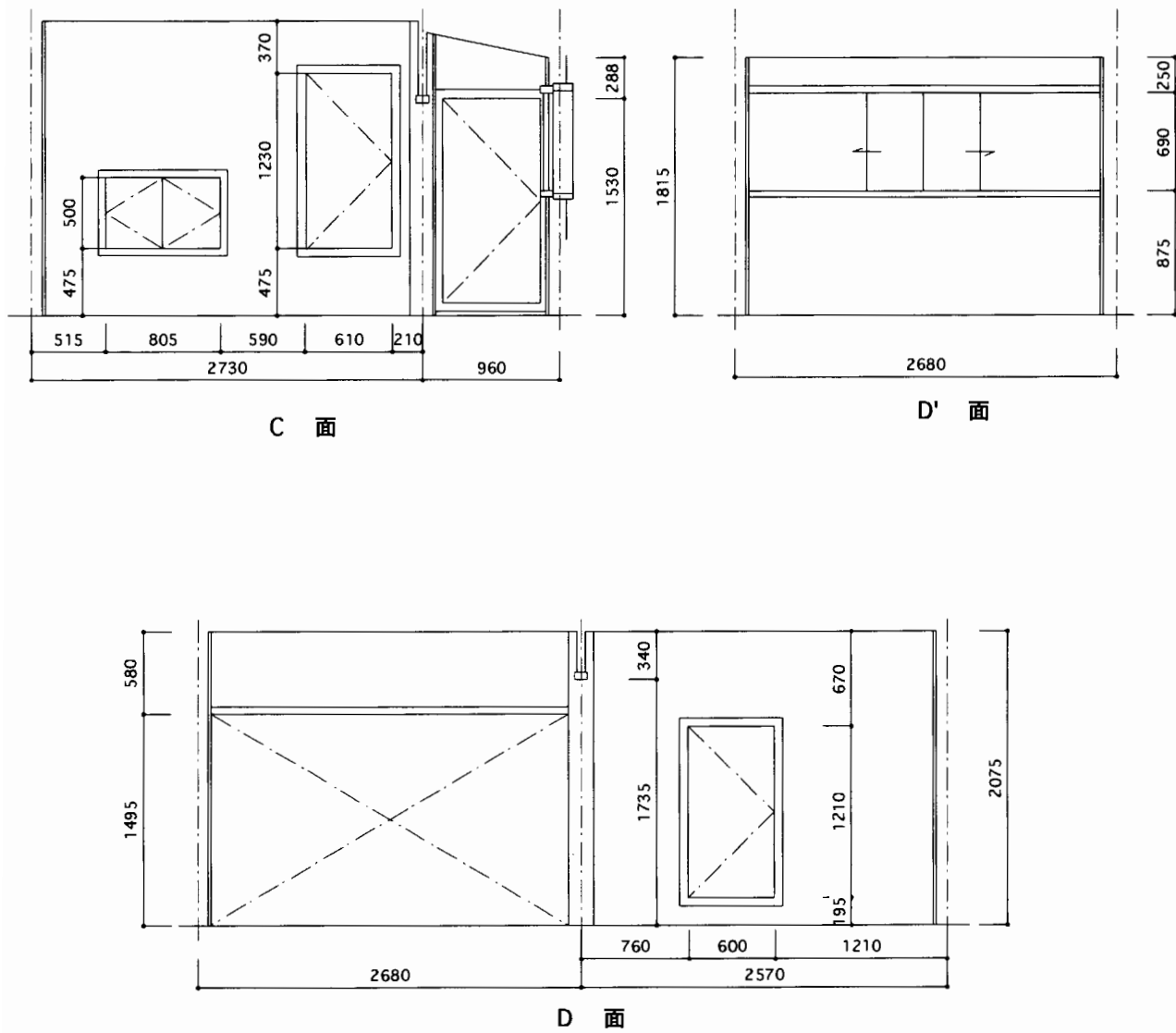
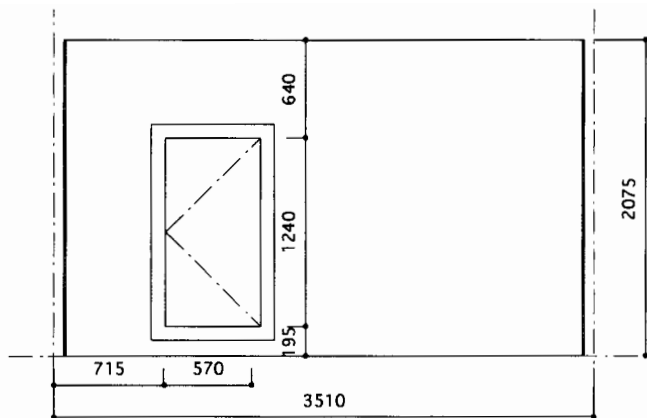
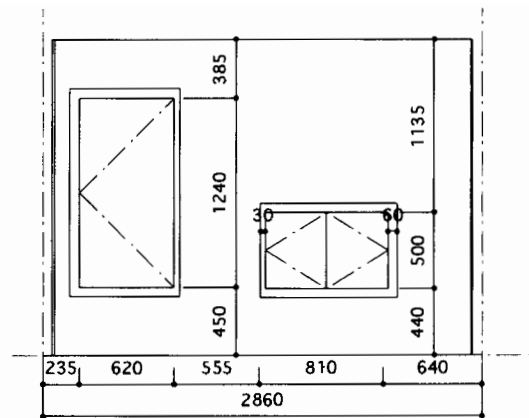


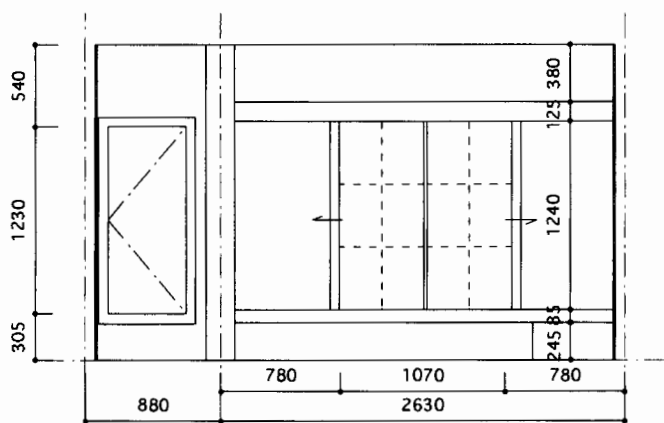
図15-2(1)主屋棟①奥座敷展開図2



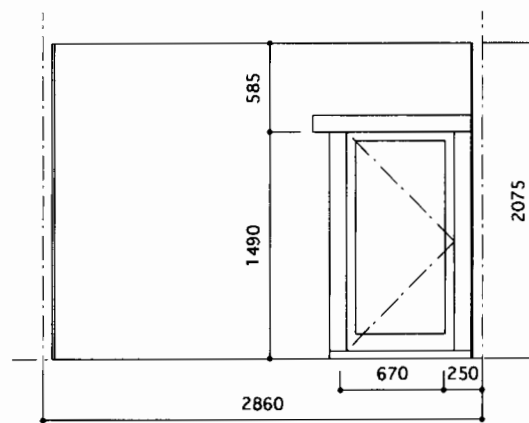
A 面



B 面



C 面



D 面

図16(1)主屋棟④向う部屋展開図

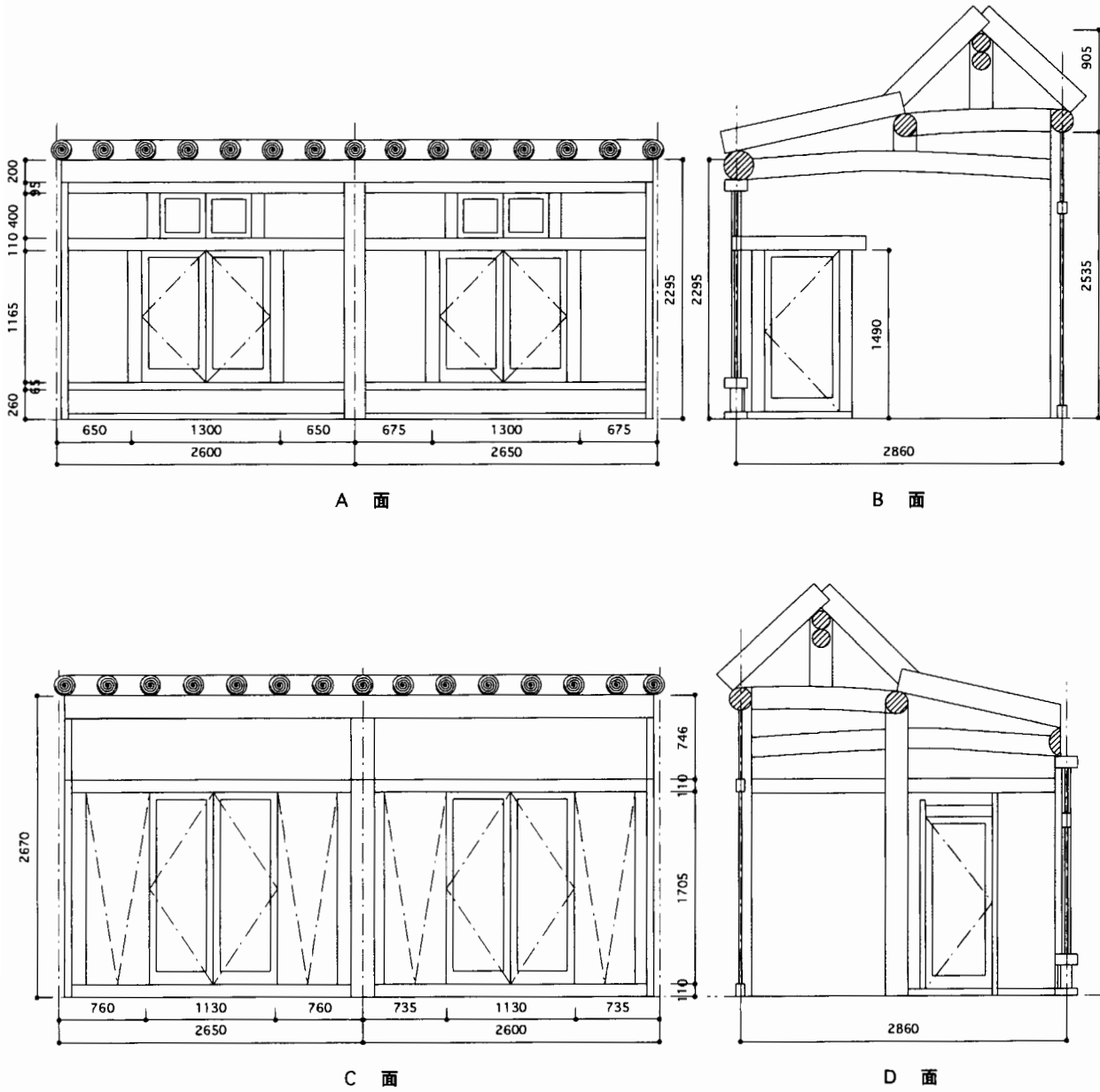


図17(1)主屋棟⑥板の間展開図

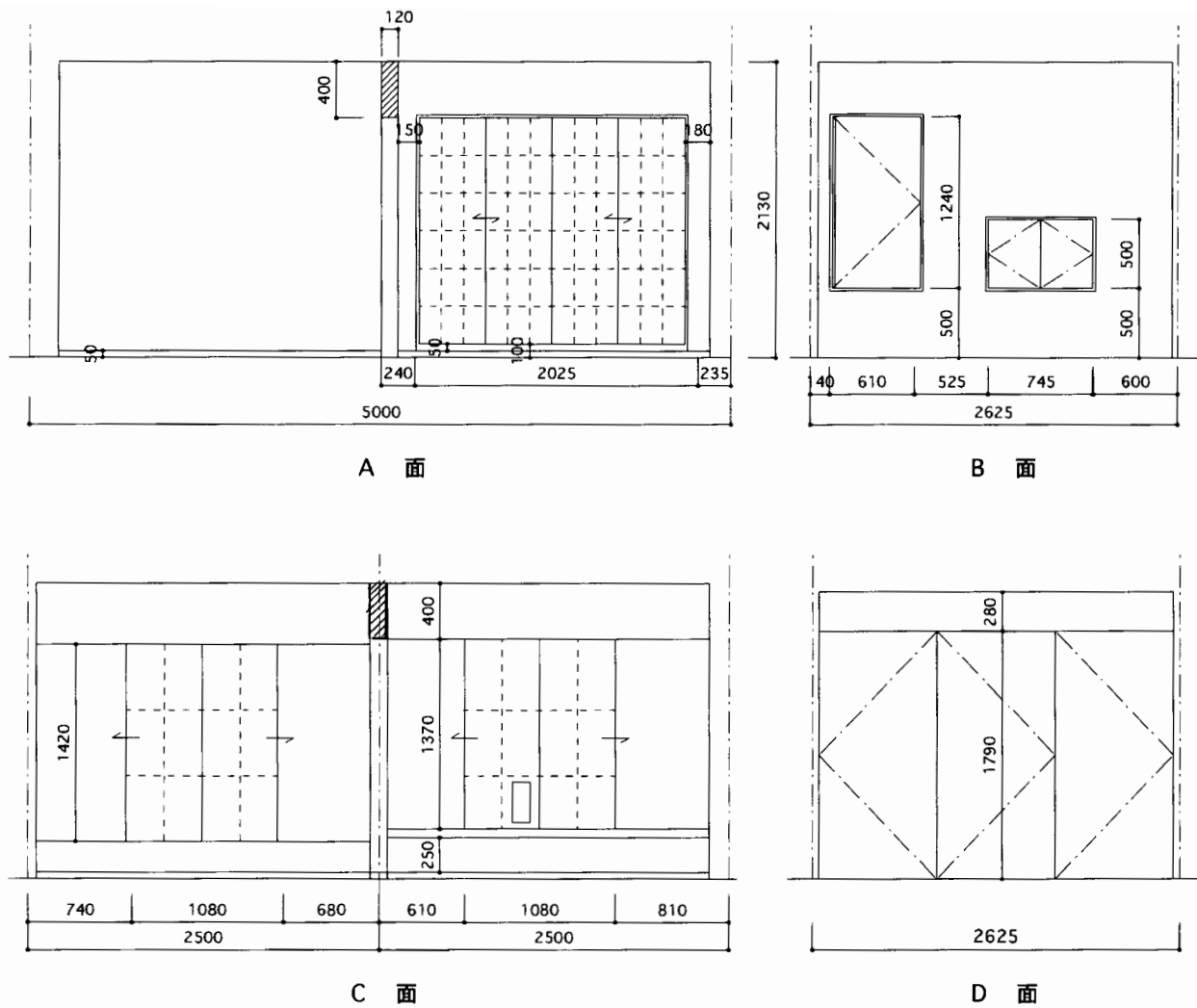


図18(2)舎廊棟①大舎廊の部屋展開図

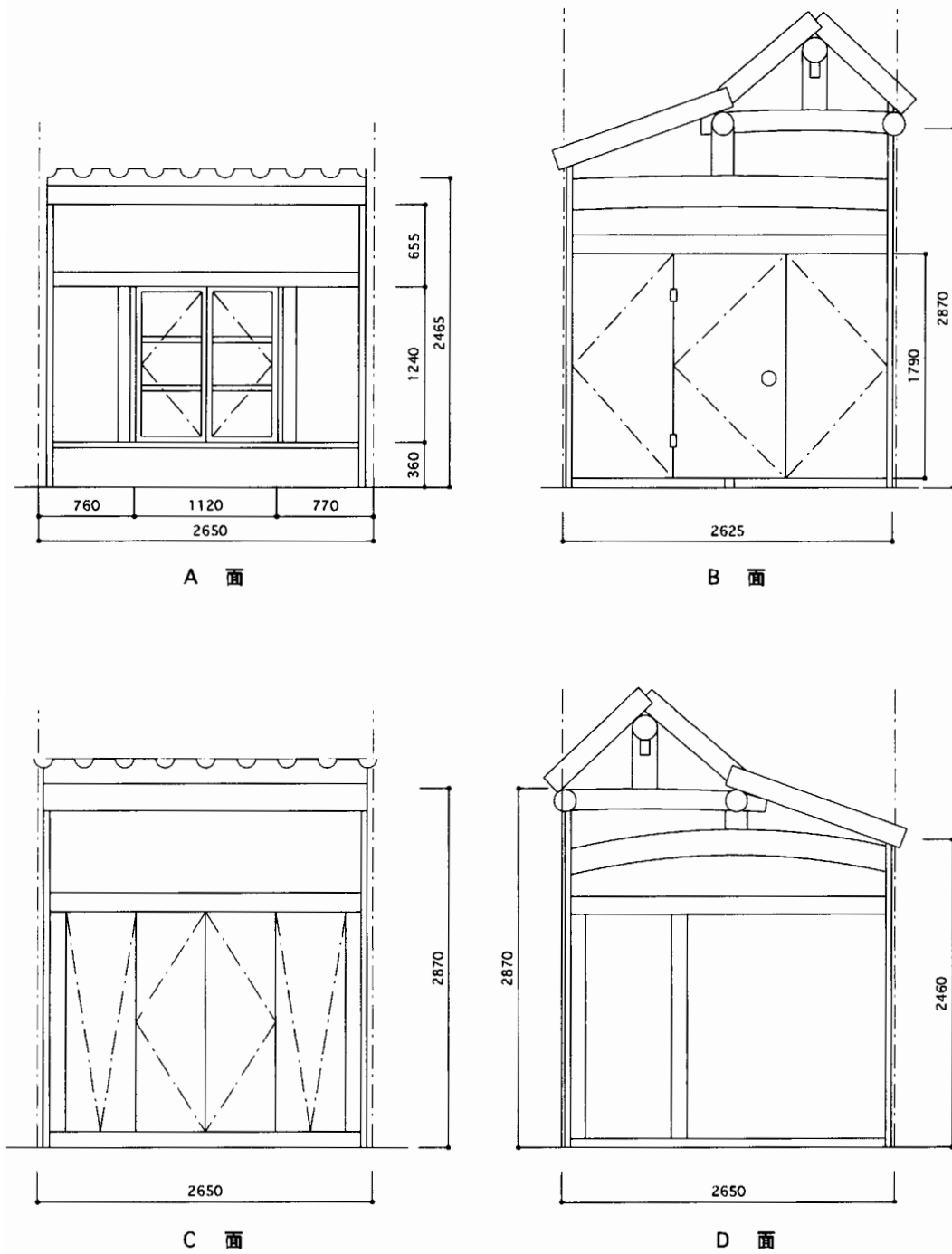


図19(2) 舍廊棟③ 舍廊大庁展開図

4. 結 論

外岩民俗村の事例としての李得善家住宅を通して韓国の中部地域の山間地に1910年代までに建てられた住宅文化を考察した。

本研究は韓国の住宅の内部空間（平面と壁面）等の実測を行い分析の資料とした。

- (1) 韓国の伝統住宅は冬の寒さと夏の暑さを防ぐための工夫が各所になされていた。
- (2) 暑さ寒さに耐えうるように窓は全て2重であったが入り口の扉は出入りのため1重であった。板の間の折り戸は季節により折り畳んだり軒に掛けて収納出来るため通風に便利であった。
- (3) 李得善氏住宅は朝鮮王朝時代の韓国中部地方の定形の平面であり、欠けたU字形の形態であることが把握できた。
- (4) 欠けたU字形の平面形態の住宅は、冬には風を防ぎ暖かく、夏には日射しを避け涼しく生活できる。
- (5) 平面構成として女性と男性の空間が棟として区分されており朝鮮王朝時代の「男女七歳不同席」を明確に実証していた。
- (6) 男性と女性の主な部屋には収納に対する工夫がなされ、食物の保存も上手く行われていた。
- (7) 各空間の平面と展開を明らかにした。これにより韓国の伝統民家の内部空間の寸法は人間工学（Ergonomics）の立場で考慮されて造られていることが確認できた。

以上の結果は、消えてゆく韓国の住宅デザインの伝統性を明確にし、その伝承に寄与出来ると考えられる。

【注】

- (1) “ヤンバン”は東班（文官の班列）と西班（武官の班列）を意味するが一般的には身分の高い上流階級の人を言う。両班家は両班階級の住宅で班家とも言う。
- (2) 居室として使用される部屋は、壁、建具、柱など全てが紙張り仕上げにされている場合が多い。木材の強い線を室内側に見せない意図と保温効果のためと思われる。
- (3) 韓国の「門」と「戸」は、同じ意味を持つ場合と異なる場合がある。基本的に「戸」を用い、適切と思われない時は「門」を用いた。
- (4) 韓国語の固有名詞は初出の場合は、漢字・ローマ字・片仮名を併記した。
- (5) 各部屋については、3平面図と展開図を参照のこと。

謝 辞

本研究に関して全面的にご協力いただきました李得善氏に厚く御礼申し上げます。

2005年度には名古屋市立大学芸術工学部助教授溝口正人博士には現地にて助言をいただきました。心から感謝しております。また本大学卒業生張永鎬博士（韓国文化観光研究院責任研究員）には大変お世話になりました。2003年度には研究室職員小林啓伯氏、太田賢作氏と当時漢陽大学校大学院生朱修言氏、全麗辰氏他の学生の方々に現地調査でご協力いただきました。建築図面作成については本学学生太田順哉君、鈴木謙太郎君の協力を得ました。

ここに深く感謝の意を表します。

本研究は名古屋造形芸術大学造形芸術センター特別研究費により2003年度から2005年度までに行った共同研究をとりまとめたもので、2004年度からは共同研究者として博物館明治村西尾雅敏部長の参加がありました。

【参考文献】

1. 牙山市（2002）、牙山外岩民俗村総合整備画
2. 牙山市、外岩民俗村2003
3. 姜榮煥（2002）韓国住居文化の歴史、技文堂
4. 金広言（2000）私たち生活100年、玄岩寺
5. 申京珠他（2005）、住居学、技文堂
6. 申榮勳（1983）、韓国の生活の家、悦華堂
7. 申榮勳、李大壁（2003）、私たち韓屋、玄岩寺
8. 朱南哲（1999）、韓国の伝統民家、Aruke
9. 文化公報官 文化財管理局（1985）、韓国民俗総合調査報告書（住生活篇）
10. キムゴアンヒョン（1991）韓国の住宅、丸善閣
11. <http://www.cha.go.kr> 文化財庁、指定文化財、重要民俗資料
12. <http://www.nagan.or.kr/> 業安邑城民俗村
13. <http://www.naver.com>
14. <http://www.oeammaul.co.kr/> 外岩民俗村、村の紹介・文化
15. <http://www.wanggok.com/> 旺谷村、村の紹介・歴史・文化・文化財・行事
16. <http://www.mcl.go.kr/index.jsp>（国語 Alphabet 表記法）
17. 文化観光部（2000）、告示2000-8号、国語表記法